

【地域体験活動①】

「聞く・話す」を使わずに、伝えられる？

2026年9月5日(土)

滋賀県

子ども県議会

事務局発行 / No.3



すまいる・あくしょん公式キャラクター
「にじはび」



9月5日(土)、滋賀県立長寿社会福祉センターで地域体験活動を開催しました。講師には、認定NPO法人Silent Voice代表理事の尾中友哉さんをお迎えしました。

今回のテーマは、「伝える・つながる」。普段、私たちはことばや声を使ってコミュニケーションをとっています。でも、もし声を使えなかったら？相手の声が聞こえなかったら？子ども議員たちは、声やことばに頼らず、表情やジェスチャー、身体の動きなどを使って相手に伝える「無言語コミュニケーション」に挑戦しました。

「伝えた」と「伝わった」は違う



最初に挑戦したのは、自分と同じカードを持つ仲間を、声を出さず、カードも見せずに探す活動です。自分のカードに描かれているものを身体で表現して、「きっと伝わった！」と思って仲間を集めてみると……「あれ？違うカードだった！」という場面も。同じものを表現しているつもりでも、人によって表し方も受け取り方も違います。子どもたちは試行錯誤しながら、相手はどんな反応をしている？本当に伝わっている？もっと分かりやすくするには？と、相手をよく見ながらコミュニケーションをとっていきました。尾中さんから投げかけられたのは、「『伝える』と『伝わる』は、一文字しか変わらないけれど、何が違うんだろう？」という問い。「伝えたつもり」で終わるのではなく、相手の表情や反応を見て、伝わったかどうかを確認めることもコミュニケーションの大切な一部であることに気づいていきました。

「聞こえない」って、どういうこと？

体験の後は、尾中さん自身の経験や、聞こえないご両親との暮らしについてお話を聞きました。デフリンピックでは、陸上競技のスタートを音ではなく「目で見て知る」仕組みがあること。聞こえない・聞こえにくい人の中にもさまざまな人がいて、コミュニケーションの方法や生活も一人ひとり違うこと。そして、尾中さんのお母さんが喫茶店を営んでこられた経験も紹介されました。周囲から「聞こえないから難しい」と言われることがあっても、お母さんが大切にされていたのは、「**同じ人間だから、普通にコミュニケーションを取りたい**」という思いでした。聞こえないから、ただ「助けてもらう人」なのではありません。尾中さん自身も、ご両親を助けることがある一方で、自分も両親に助けられながら育ってきたと話されました。そこから子どもたちに伝えられたのは、「助ける人」と「助けられる人」に分かれるのではなく、人と人はお互いに助け合って生きている。というメッセージでした。



「障がいがあるから、この人生」ではなく

後半には、尾中さんのお父さんの経験や、聞こえない・聞こえにくい子どもたちを取り巻く環境についても話を聞きました。同じ程度の聞こえにくさがあっても、そのことをどう捉えるかは一人ひとり違う。そこから尾中さんは、「捉え方は、環境によって変わる」という視点を子どもたちに伝えました。会話に参加できるか。自分で選択できるか。「やってみたい」と思ったことに挑戦できるか。本人の「できる・できない」だけを見るのではなく、その人がどんな環境にいるのかを見ることも大切です。



子ども議員たちが感じたこと

活動後の振り返りには、体験したからこそその言葉がたくさん残りました。

- ・『もどかしさ』『うれしさ』『あせり』『おどろき』などを感じました。この感じたことと、今日の学びを忘れずにいたいです。
- ・障害者だからこんな人生にしないで、という風潮が無くなることを心から願います。
- ・耳が聞こえにくい人などは助けるだけでなく、こちらも助けてもらうし、みんな人間なんだと思いました。良い環境に出会うむずかしさについて知ることができた。全員が暮らしやすくなるために、滋賀県や自分に置き換えて考えていきたい。
- ・『見て気づいて行動する』を思い出せるといいなと思います。
- ・『人は助けられ、助けている』という言葉がすごくささりました。



今回の活動で子どもたちが学んだのは、単に「聴覚障がいについて知る」ことだけではありませんでした。声を使わずに伝えてみたからこそ、「伝わらない」もどかしさ、相手の表情を見たからこそ、「伝わった!」という嬉しさを感じました。尾中さんのお話から、聞こえない人を一方的に「助けられる人」として見るのではなく、誰もがお互いに助けたり、助けられたりしながら生きていることを考えました。そして、本人の「できる・できない」だけではなく、「その人が参加できる環境になっているだろうか?」「自分で選べる選択肢があるだろうか?」「みんなが暮らしやすい、たくさんの選択肢が選べる県にするには?」と社会の側から考える視点にも触れることができました。